

Letter for Members No. 13 2004

Japan
Prosthodontic
Society

日本補綴歯科学会

Japan Prosthodontic Society

<http://wwwsoc.nii.ac.jp/jpds/>

発行人 大山 喬史 編集 広報委員会

事務局 〒170-0003 東京都豊島区駒込1-43-9 (財)口腔保健協会

Tel 03-3947-8891 Fax 03-3947-8341

平成16年2月10日発行

学術大会の年1回開催実現への検討

学術大会の年1回開催へ向けての検討が始まったことは、2003年第110回学術大会時に発行したLetter for Members 秋特別号で、その背景となった2002年に全評議員を対象に行われた「日本補綴歯科学会の年2回開催の問題点のアンケート」結果は、補綴誌47巻5号綴じ込みのLetter for Members 12号で、すでにお知らせした。

さらに実現への検討のために、平成15年12月22日(月)に、「第2回年1回化ワーキング会議」【出席者：大山喬史会長、赤川安正(座長)・野首孝祠両副会長、平井敏博(庶務)、櫻井 薫(会計)、早川 巖(生涯学習検討)、冲本公繪(広報)、馬場一美(会長幹事)、越野 寿(庶務幹事)、小林 博(学術幹事)、鈴木哲也(生涯学習幹事)、津賀一弘(座長幹事)】が、東京医科歯科大学で開催された。また、年1回開催実現には支部活動との協力体制が大前提であり、平成16年1月31日(土)に各支部長参加の委員長会が開催され、さまざまな問題解決に向けての検討が行われた。

● 年1回化に向けてのタイムスケジュール

1) 平成16年第111回日本補綴歯科学会総会において「年1回開催を実施することの議決案」を提出する。

2) 平成16年第112回日本補綴歯科学会臨時総会までに、年1回化に伴う会則変更についての検討を行い、同案を総会に提出する。

3) 平成17年の秋までに、会則変更について総会の承認を得る。

4) 平成18年度より年1回開催を実施

● 年1回開催における基本原則

1) 日本補綴歯科学会としてのアクティビティを下げないこと

2) 支部活動の独自性を本部との連携のもとに確保する

3) 生涯学習公開セミナーの一層の充実をはかる

これらの基本を踏まえ、学術大会の日程、発表方法のほか、支部活動の日程やあり方、認定医申請の方法、総会のあり方、会計関係などのさまざまな事項の具体的な検討が始まった。

GNYAP (Greater New York Academy of Prosthodontics) と JPS (日本補綴歯科学会) との共催学会開催される

2003年12月5日(金)、6日(土)、雪景色のニューヨークのプラザホテルにおいて、GNYAPとJPSとの初のジョイントミーティングには、大山喬史会長、赤川安正副会長、古谷野 潔国際渉外委員長をはじめ、理事、評議員、会員の多数



左から大山会長、Furnari GNYAP 会長、赤川副会長

が参加のもと開催された。JPSからは市川哲雄教授（徳大）の招待講演と13題のポスター発表が行われ、新たなScientificな国際交流が始まった。

JPSの学会共催に対し、GNYAPの会長Peter C FurnariやAmerican College of Prosthodonticsの会長Nancy S Arbreeほか多数のGNYAP会員の方から大山喬史会長に対し、感謝とお礼のメールが届けられた。以下GNYAP会長からのメッセージを紹介する。

Dear Dr. Ohyama,

It is just two weeks ago, this evening, that we met at the Columbus Club to welcome the Speakers for the first historic international scientific meeting, jointly hosted by the GNYAP and JPS. Over the past two weeks I have received numerous notes and messages expressing appreciation and thanks for the excellence of the outstanding program presented by the Clinicians and Poster Presenters at this Meeting.

The GNYAP Council met, as usual, during the week following our joint meeting. Council wishes to acknowledge its appreciation and thanks to the many members of Japan Prosthodontic Society for traveling to New York to witness first hand and support our joint effort. It was truly our honor to share these days and meetings with you. It is our sincere desire, in the near future, to continue to renew and strengthen the friendship and fellowship that was evident throughout the weekend.

On a personal note, I know that our friendship will continue to grow. It is “destiny” as Dr. Akagawa observed. …中略…

As you probably already know, the New York Times sports page headline earlier this week indicated that the Japanese star shortstop, Kazuo Matsui has signed a contract to play baseball with the NY Mets next season. As an avid NY Mets fan since 1969, I would like to believe that it will more than a coincidence that the NY Mets, with Kaz Matsui, will have the same degree of success next season that the GNYAP and JPS have experienced with our joint scientific meeting this year.

I feel confident that our friendship will continue to grow and look forward to meeting with you again in the near future.

Warmest personal regards,
Peter C. Furnari, DDS
Immediate Past President, GNYAP
Clinical Professor, Prosthodontics and Occlusion
Former Director of Pre-Clinical Sciences
New York University College of Dentistry

Greater New York Academy of Prosthodontics (GNYAP) 参加報告

2003年12月5(金), 6(土)の両日, 大雪に見舞われたニューヨークのプラザ・ホテルにて上記学会が開催された。わが日本補綴歯科学会(JPS)との初のジョイント・ミーティングであり, JPSからは17大学56人の会員が参加した。



ニューヨーク大学歯学部学生実習室

学会前日の4日(木)は, われわれJPSのため特別に, ニューヨーク大学歯学部見学ツアーが企画され, 35人が参加した。初めに副学部長のDr. Panno(補綴学教授)から歓迎の挨拶があり, その後, 学生実習室や講義室, 一般診療室, 臨床研究のための診療室, 審美歯科診療室など見学した。合理的でスタイリッシュなハードウェアに圧倒された。見学後には学部長のDr. Alfanoから挨拶があり, 最後にDr. Pannoが補綴の, 特に無歯顎補綴のパラダイムシフトについての考えを述べられた。見学時は通常の教育や臨床が行われていたにもかかわらず, 非常に協力的かつ友好的なツアーであった。

GNYAPのミーティングではさまざまな分野のキーノート・スピーカー18人の講演(各45分)を清聴した。質疑応答は講演直後にはなく, フロアやレセプションで個別に討議するスタイルであった。わがJPSからは徳島大学の市川哲雄教

授が代表として、“Immediate Implant-supported Oral Rehabilitation Using Advanced Dental Technology”という演題で講演された。



招待講演者の市川
哲雄先生

講演後、GNYPのあるメンバーから、日本の歯科補綴学とテクノロジーとの結合はたいへん素晴らしい、非常に興味深いという評価を受けた。また、クインテッセンス出版の推薦で、招待講演をされた秋田県湯沢市開業の佐藤直志先生も歯周補綴についてたくさんの臨床例を供覧された。

ポスター発表の20演題（日本から13題）の前では、各国の参加者による熱い討議がなされていた。

初日のビジネスランチでは、GNYP会長のDr. FurnariからJPSに対して歓迎の挨拶と記念品が授与され、お返しにJPSの大山喬会長がお礼の挨拶を述べ、ジョイント・ミーティングの記念として浮世絵を贈呈された。

学会最終日の夜はピエール・ホテルにてパーティが行われた。初めてのジョイント・ミーティングで、ブラックタイに着席スタイルのためか、若干親睦を深め難かったかもしれない。しかし、ダンスフロアではGNYPのメンバーと一緒にダンスを楽しむ会員たちもいた。

学会もパーティもGNYP史上最大の参加者で、GNYP側からも、今回のジョイント・ミーティングは大成功であったとの声が多数聞かれた。来年GNYPは第50回記念大会を迎えるが、さらに盛大な会となることが期待されている。

(広報 松山)

Letter for Members 秋特別号 アンケート結果

第110回日本補綴歯科学会学術大会（平成15年10月24、25日）において、第109回と同様に、ニュースレターのアンケートを実施した結果を報告する。会員からの質問や意見に対する回答は、該当する委員会などが行った。

アンケート項目

- 1) 学術大会に関するご意見
- 2) 日本補綴歯科学会に対するご意見・ご希望
- 3) 広報委員会に対するご意見・ご希望

1) 学術大会に関するご意見

● 朝から認定医研修カード提出ボックスが出してあった。教育講演まで聞いて、カードを提出しようとする、ボックスは片付けたので明日提出してくれという。シンポジウムなどを聞かなくてもカードが提出できるのに、まじめに最後まで聞くとカードが提出できない。ばかげている。

回答（認定審議会）

認定医研修カードの回収は、学会の事務作業を担当していただいている口腔保健協会の方にやっていただいております。臨床教育研修ならびに研究教育研修が終了する時間は口腔保健協会の職員の勤務時間をはるかに越えて遅くなるのが常であるため、両教育研修終了後には口腔保健協会の職員が引き払っており、カードの回収ができなかったものと思います。今後は回収を終了する時間を明示することでご迷惑をおかけしないように配慮いたします。また、回収したカードの枚数と実際の学会参加者に差があるのではという指摘もなされていますので、カードの回収方法については今後再検討させていただきます。

● 認定申請のケースプレゼンテーションで患者がみえていないケースをよく目にします。この会に限らず、矯正歯科学会でも同じですが、研究としての学問のなかでだけみている。患者の抱える課題がみえていない症例報告なども多くみうけます。大学に籍をおくだけで認定の資格がもらえるようにさえ思えてきます。大学を去って早20年、顎機能障害なども一般的になってきましたが、矯正治療と補綴治療の統合や、医科との連携は、ここでは発表しにくい気がしています。

回答（認定審議会）

ご指摘のケースプレゼンテーションのあり方も含めて、現在委員長会で認定医の合格要件の再検討を始めております。しかしながら、法人化との関係など、学会自体がいろいろと認定作業に関連した不確定要素を抱えており、すぐに結論の出る問題ではありませんので、もう少しお待ちくださるようお願いいたします。

- ポスター発表をもう少し規模を大きくして欲しい。
- 会場が狭すぎました。ポスターをみていると後ろの人とぶつかってしまいます。少し遠目からみても後ろの人とぶつからずにかつそのまま間を人が通れるようにして欲しかったです。
- ポスター発表のスペースが狭く、みるどころか、通るのも大変でした。配置をよく考えてくれるとうれしいです。

回答 1 (学術委員会)

次回以降に申し伝えますが、開催地の都合により会場の大きさは制約があることはご承知置きください。

回答 2 (第 110 回学術大会大会長)

開催施設、会場を選ぶにあたり、第 1、第 2 会場、ポスター、業者展示会場など運営に関連する問題には留意しながら、オリンピックも開催している「ビックハット」など、ほかの施設も含めて検討し、「長野県県民文化会館」にいたしました。その結果、各会場への移動の便、第 1、第 2 会場の広さ、の点でほぼ十分ではなかったかと考えています。今回ポスター会場は、施設内の構造の点から分散させず 1 つの会場（小ホール）に集約しましたが、文化会館のなかでは有効フロア面積が一番広く、パネル間の幅も 3 m は確保しました。しかし、近くに体育館のような施設があれば、ポスター会場として混雑は避けられ、よりゆとりのあるふさわしい会場になったかもしれません。

すべての会場が、そのときの学会形式、規模に見合っていることは開催の要件ですが、施設、会場により一長一短があること、それぞれの学会開催時の事情によることなどご理解いただければ幸いです。

- 一般講演はすべてポスターとし、口演はすべて課題としてはどうか？

回答 (学術委員会)

検討します。この場合、口演希望の演題が課題として適当でない場合ポスター発表になることがあるということが前提となります。

- 原稿を読むような教育講演はいかがなものでしょうか。

- 大会長の決定方法に関する基本的考え方をお聞かせ下さい。
- 大会長の決定方法が指名制になったことですが、何を基準にして指名するのが不明確だと思います。このままでは、また以前のような問題が出てくるのではないのでしょうか。心配です。

回答 (大山喬史会長)

学術大会は、学会活動の中核をなす重要な事業の 1 つであることは今更申し上げるまでもありません。したがって、大会長がどのような手段で選ばれようとも、学会活動を低下させるわけにはいきません。また、新しい情報の発信とともに、会員のみばかりではなく、歯科医師およびその関連の方々に加えて、一般の方々をも啓発する学術大会であらねばならないと考えます。

これまでの本学会における大会長の決定は、長年にわたり、全国 29 歯科大学・歯学部歯科補綴学講座あるいはその関連講座の「輪番制」によってなされてきました。しかし、一方では、地域性や大会長の学会運営経験などが全く考慮されていないのが実情です。さらに、一通りの輪番制の役割を終えようとしている現在、これらの多少の不具合に対して、再考する絶好の時期でもあることも事実です。そこで、現在「学術大会開催の年 1 回化」「学会の法人化」などの議論が進むなか、その変革期に向けて、本学会が心身ともに円滑に移行できるよう準備しておく必要性から、大会長の決定方法の見直しを行うことにいたしました。

基本的には、「指名制」としましたが、このことによって、大会長の企画運営における責任が今まで以上に重くのしかかることは否めません。そこで、本学会の意向を十分に掌握し、それを反映させるために、学会におけるさまざまな活動や貢献度がきわめて重要な点であると考えました。これには、各種委員会活動などにおける学会運営へのかかわりの深さ、学術大会におけるシンポジウム、特別講演、各種フォーラムなどにおける実績、本学会雑誌および国内外関連雑誌への投稿論文数などの活動が含まれると考えられます。さらに地域性も考慮すべきであると考えます。なお、大会長候補者の指名制に関しては、学会長が評議員の選挙によって決定されていることから、会務連絡会などで協議のうえ、理事会へ諮問されこととなります。し

たがって、選ばれた学会長の意向が強く反映されることとなりますが、以前に行われていた選出方法とは異なりますので、後戻りはないと信じております。また、大会長への「立候補制」や「評議員の選挙による候補者の選出」なども考えられますので、今後、学術委員会を中心に、さらなる検討を加えていきたいと思っています。

- シンポジウム講演など（特別講演を除く）について、会員の評価を行うようにしてはどうか。そして、その評価結果を次の学術大会に生かすようにしては、難しいとは思いますが。

回答（学術委員会）

検討します。

- 田中康夫知事の講演が是非聞きたかったです。

回答（第110回学術大会大会長）

当初、田中知事に特別講演を直接依頼し、快諾していただいたばかりでなく、正式な了承手続きも完了しておりました。しかし、学会開催3カ月前になり、公務日程上のやむを得ない事情により、かなり難しい状況になったとの連絡があり、変更を余儀なくされました。私たちもせっかくの機会でしたので大変残念でしたが、幸いプログラム編成にはあまり影響はありませんでした。

- 浸漬の読み方に関して、「シンセキ」と「シンシ」の2通りの読み方があり、どちらか1つに統一して欲しい。

回答（用語検討委員会）

「浸漬」の正しい読み方は「シンシ」ですが、誤読に基づく慣用読みとして「シンセキ」も認めると、多くの漢和辞典に掲載されております。「口腔」の本来の読みである「コウコウ」が「コウクウ」なる誤読として定着してしまったのと同じ部類のものと考えます。「浸漬」は専門用語というより一般用語であることも考えれば、世間で認められている慣用読みを一学会で否定することはできません。

- 今回の長野は季節的にも非常に美しく、天候も快晴で気持ちよく参加することができました。

2) 日本補綴歯科学会に関するご意見・ご希望

- 学会誌の電子化を将来的に考えて欲しい。

回答（編集委員会）

編集委員会では補綴誌の電子化に向けて検討しております。電子化を行うにあたっては著作権、倫理規定、プライバシー保護（肖像権）の問題が挙げられます。これまでに学会誌への著作権譲渡文を45巻4号から6号まで連続掲載することで、著作権問題については解決されました。また、倫理規定については、よりいっそう強化する必要があることから、倫理に関する留意事項に関して投稿規定に追加されました。プライバシー保護（肖像権）の問題については、インターネット上での配信になるとさらなる慎重さが必要となってくるため、現在編集委員会にて検討中です。

- 最近の学会は液晶プロジェクター使用がほとんどで、いまだにスライドを使用するのはアナログで時代の流れに乗っていない。

回答（学術委員会）

演者間の切り替えなど、運営上の問題の解決を含めて検討したいと思います。

ただしコンピュータをおもちゃでない会員に対する援助が必要になると考えています。

また、液晶プロジェクターによる発表は単写にならざるをえません。これにむけて、スライドの単写を検討すべきかと考えています。

- 市井で長く腕を磨き学会に入っただけはいるが大学には属していない。専門医と称するもののいつていることとは違う医療を患者から学び、その裏づけデータを積み重ね、さて、それをどうまとめようか統計も忘れ対照例もない。市井の臨床医の愚痴です。

- シンポジストの数名の先生方が少し窮屈な話し方をされていたのが気になった。もう少し自由に話をしていただきたいかった。

- 女性用のネームホルダーを用意して欲しい。

回答（広報委員会）

次回以降に申し送ります。

- 学会が開催される地元の人、特にタクシーの運転手などは、“補綴”が読めないで“ルビ”

を打って欲しい。

回答（広報委員会）

今後とも一般市民に対して、「補綴」の名称、呼称の普及に努力して生きたいと思います。

3) 広報委員会に対するご意見・ご希望

- 非常に見やすく読みやすい形式になっていると思います。
- Letter の写真がとてもきれいです。内容も充実していて良いです。
- いつもスピーディーに仕事をされているので気持ちが良いです。これからも頑張ってください。

回答（広報委員会）

補綴歯科学会のさまざまな情報を、できるだけスピーディーに会員の皆様にお伝えし、また会員からの意見が反映されるように、執行部と会員相互をむすぶパイプ役としての役割をはたすべく努力してまいります。

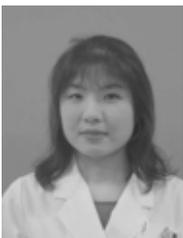
会員の声

前号に引き続きこれからの補綴歯科学会の担い手となる若い研修者の声を紹介する。

女性補綴医として

田上 直美

長崎大学医学部・歯学部附属病院専門歯科



長崎大学歯学部を卒業後、そのまま歯科補綴学第一講座（当時）に入局させていただいて以来15年余が経過しました。近年、長崎大学も他大学と同様大きな変換期を迎えており、私の所属も二転三転しましたが、長い間使用していた「長崎大学歯学部附属病院 第一補綴科」所属の名刺が、この10月によやく「長崎大学医学部・歯学部附属病院 専門歯科」に着きました。研究面は入局以来あまり変化がないのですが、熱田 充教授が注力する前装用レジンの開発、評価を出発点とする幸運に恵まれ、途中、田中卓男鹿児島大学教授、松村英雄日本大学教授をはじめとする諸先生のご指導を賜りつつ、高分子材料に関する研究を中心に現在もなお勉強中の身です。

九州、しかも長崎となるといささか男尊女卑の傾

向が強く、女性の社会進出には都会にはない苦勞も伴いますが、私が現在までさしたる困難もなく研究活動を続けられたのは、大学や補綴歯科学会のご理解のお陰と感謝しております。私は第104回学術大会で The Journal of Prosthetic Dentistry の Judson C. Hickey Scientific Writing Award を、第105回大会で日本補綴歯科学会奨励論文賞を受賞させていただきましたが、実はこの2大会の間に（私事で恐縮ですが）出産を経験いたしました。研究者として、女性として、双方の貴重な体験を同時期にできたことは今でも誇りに思いますし、今後も種々の局面において男女共同参画を推進していただけたらと願う次第です。

女性会員が少ない補綴歯科学会ですが、補綴分野においても女性特有の感性が生かされる診療や研究は多くあると思います。私は現在、診療業務として、入れ歯・そしゃく治療室と審美歯科室を兼務しておりますが、患者様の心のケアや補綴装置への美的感覚などに女性の関与は必須と実感しております。もちろん、女性として、人間として円熟し、義務と責任をはたせることが大前提であることはいまでもありません。

歯学部入学者の半数近くが女性になった昨今、学術大会も女性が増えて賑やかになりました。2001年の国際補綴歯科学会（ICP）では、九州大学の沖本公繪先生、松山美和先生が「日本人女性2名受賞」という快挙を成し遂げられています。今後、女性補綴医がますますパワフルに、ダイナミックに活躍されることを期待いたします。

第110回大会課題口演受賞者の声

堀 紀雄

神奈川歯科大学歯科補綴学講座

演題：ストレス時における視床下部室傍核の neuronal nitric oxide synthase (nNOS) 発現と噛む事による影響

この度は第110回日本補綴歯科学会学術大会課題口演コンペティションの受賞者に選出して頂き、ありがとうございました。大変光栄に思っております。顎顔面を含めた咀嚼器官と脳、全身の間には密接な関係があるといわれておりますが、その科学的エビデンスは確立されていません。今まで、ヒトや動物においてさまざまな研究がなされてきましたが、実際に脳内でどのような物質がどのように口腔機能と関与しているかについての研

究は、ほかの研究分野よりも圧倒的に少ないと感じておりました。それゆえに、咀嚼器官にはまだまだ謎も多く、咀嚼、発音などの機能のほかに脳、全身に影響する機能をもった重要な器官としての可能性を秘めていると思われます。また、口腔機能と全身とのかかわりを科学的に解明することは、21世紀における日本補綴歯科学会の課題の1つにも挙げられております。現在までの形態的、機能的修復に加え、脳や全身への影響を回避し、守っているという事実を1つひとつ積み重ねていくことは、単に学問的だけでなく国民に対しても噛むことの重要性を明確にし、それに続く補綴治療、歯科治療の意義をより一層啓蒙することができると考えます。今後とも多くの先生方にご指導頂きながら研究を続けていきたいと思っております。



左から豊田 實教授、堀 紀雄先生

今回の研究にあたり、研究のご指導賜りました神奈川歯科大学口腔生理学教室の湯山徳行助教授に深謝いたします。また、終始懇切なるご指導賜りました同歯科補綴学講座の豊田 實教授、成長発達歯科学講座の佐藤貞雄教授に深謝いたします。

以上、受賞のご挨拶とさせていただきます。誠にありがとうございました。

第110回大会デンツプライ賞受賞者の声



濱中麻衣
岡山大学歯学部附属病院
第二補綴科

演題：岡山大学第二補綴科における顎関節症の初診から終診までの主観的・客観的症状の推移

この度、第110回日本補綴歯科学会デンツプライ賞を受賞させていただき、誠に光栄であり、感謝しております。

受賞させていただいたポスター発表の内容は、顎の疼痛・雑音あるいは筋症状を主訴に岡山大学歯学部附属病院第二補綴科を受診した患者に対し、患者の主観的評価であるVASと術者側の客観的評価である最大開口量を用い、初診時と終診時を比較することにより、治療効果が上記尺度に有意性をもって反映されているか否かを検討する、というものでした。また、この結果を報告することにより、ほかの医療機関における治療成果との比較検討や、情報提供を行うことをもう1つの目的にあげました。

岡山大学第二補綴科に研修医として入局し、臨床の場面において顎関節症の治療に携わっているときに、患者の主観的、客観的な症状の変化に関して興味をもったことがきっかけで、今回の発表をさせていただくことになりました。発表の際の質疑応答ではいろいろな先生方からさまざまなご質問、ご意見をいただくことができ、とても良い経験をさせていただきました。そして今回の発表を通じ、顎関節症の患者に対する主観的・客観的評価法について、さらなる研究が必要だということ強く感じました。

今回得た経験をもとに、これからも臨床・研究双方に全力で取り組んでいきたいと思っております。

最後になりますが、この研究に終始にわたりご指導・ご校閲をいただきました、岡山大学大学院医歯学総合研究科咬合・口腔機能再建学分野の皆木省吾教授、そして教室員の皆様に心よりお礼申し上げます。

ありがとうございました。

日本補綴歯科学会認定研修期間（乙） 取材報告

医療法人社団・山根歯科医院

今回の取材は、電子メールによるインタビューというこの企画の初の試みです。医療法人社団・山根歯科医院の理事長の山根 進先生に電子メールでインタビューをお願いしました。

インタビュアー（イン）：貴研修機関の概要をお教え下さい。

山根 進 先生（山根）：当研修機関は、九州大学大学院歯学研究院咀嚼機能再建学分野の古谷野 潔教授の指導のもとに認可されました。当院は本州西端の山口県にあり、山口宇部空港に車で5分という場所に位置し、かろうじて陸の孤島から逃れています。歯科医師は私を含めて3名、歯科衛生士7名、歯科技工士2名、歯科助手

3名の計15名です。

イン：貴院の目標をお教え下さい。

山根：当院は小規模な開業形態を取りながら、病院などへの訪問診療に積極的に取り組んでいます。われわれ歯科医師は地方都市の宿命として、高度な技術を身につけた一般臨床歯科に日夜取り組み、「血を見る補綴」を目標にがんばっています。「血を見る補綴」は私が大学院時代のキャッチフレーズであります。口腔外科、歯周外科、エンド、歯列矯正などをすべて高度にマスターしたうえで、補綴をしていくのが、真の補綴家であると考え、ナソロジー全盛時代に補綴家が弱点とするところの外科を取り入れて、補綴の領域を開拓していくことを主張し、開業していた父のもとに帰ってからも、一貫して「血を見る補綴」で頑張ってきました。



山根 進先生



山根歯科医院

イン：「血を見る補綴」。刺激的なお言葉です。それでは、その目標を達成するための「教育方針」やその「実践」はどのように行われているのでしょうか。

山根：「教育方針」としては、次の3点に重点を置いています。

- 1) 片寄らない技術の修得と患者への感謝の念をもつこと。
- 2) 学会、講習会、研究会に積極的に出席発表すること。
- 3) より深い洞察力を鍛練していくこと。

次に、具体的な「教育実践」としては、当院の勤務医は私が補綴出身だからかもしれませんが、全員補綴が得意であり、そのうちの1人は1日中総義歯のこじしか考えていないし、もう1人は歯を削ることしか頭が働かないという感じです。研修機関(乙)になって、一番変わったことは、私自身が教育とはなにか、カリキュラムを組んでやるにはどうすればよいかということを真剣に考えだしたことです。まず、勤務医には目標をたてて、コツコツと集中力をもって診療にあたり、患者に対し正直になり、我慢するところは我慢を

し、充実した生活を送るように指導しています。治療に関しては毎週火曜日の夜、輪読会と症例検討会を実施しています。外科に関してはいろいろ質問してくるのですが、補綴に関してはほとんどしてきません。たしかに、総義歯のエビデンスは難しく、皆自分の経験に基づいて作製しているというのが現状であり、自分本位のかたよった知識や技術になりがちであります。そうならないように、学会をはじめ人前で機会があれば発表するように指導しています。そうすることにより、自分の考えを深め、正しいスタンダードな思考が身に着くと考えています。また、毎週木曜日にインプラント学会研修施設日本歯科先端技術研究所の勉強会に参加させ、他流試合をさせることにより、カルチャーショックを与え、視野の広い歯科医師になることを望んでいます。

イン：最後に、山根先生の指導医としての心構えなどについてお教え下さい。

山根：当院では勤務医は最低3年以上平均5年間勤務しており、一旦患者の担当医になったら、当院に勤務している最後まで面倒をみせることにしています。経過観察をと



勤務医とともに

して、診療が患者との相互の信頼関係すなわち、患者の感謝と担当医のトキメキによって成り立っていることを理解させています。勤務医が将来的に歯科医療に対して希望をもって実行できるようにわれわれ指導医は努力すべきであると考えます。

イン：ありがとうございました。以上でメールインタビューを終わります。

(広報 貞森)



蘇る、審美・機能
そして卓越した操作性
まったく新しい人工歯

健保適用硬質レジン歯
許可番号：27BY6021

ヘレウス クルツァー ジャパン 株式会社
フリーダイヤル：0120-230-331(受付時間10:00~16:00/土・日・祝日も除く)
<http://e-ha.heraeus-kulzer.co.jp/>

関連国際学会報告

51st meeting of American Academy of Maxillofacial Prosthetics (アメリカ顎顔面補綴学会)

2003年11月1日(土)～4日(火)の4日間、米国アリゾナ州スコッツデールにて、上記学会が開催された。これは北米(米国とカナダ)の学会だが、例年、海外からも参加者が集まる。2002年の第50回記念大会に比べると、今回は海外6カ国から約10人(日本からはレポーターのみ)と少なかった。

初日の夜、ウェルカム・レセプション会場にて16題のポスター発表が行われた。一般演題はポスターのみで、和やかな雰囲気の中で討議が続いた。また、2日目以降は、早朝からキーノート・スピーカーによる講演が行われた。硬口蓋、軟口蓋欠損や頭蓋骨欠損、インプラント、エpiteゼ、構音治療など、多岐にわたる内容であった。なかでも興味深かったことは、日本では硬口蓋欠損の外科的再建例はあまりみられないが、北米では約半数程度行っているとのことだった。しかしほかの専門家によると、その割合は病院によって異なるとのことであった。

この学会は毎回CE(Continuing Education)コースを開催するが、3日目の午後、今回は「エpiteゼ作製のワークショップ」であった。約50名の参加者を2グループにわけ、シリコーン材の選び方から色づけまで、限られた時間だったが、目の前でインストラクターから説明を受け、手法をみることができた。とてもわかりやすく企画されていた。また、著名な先生も多数参加しており、その先生方の熱心さは見習わなければならない点が多かった。

日本と北米では保険制度が大きく異なるため、顎顔面補綴の治療内容もそれに影響を受け、異なる点は多い。しかし、同じ分野の臨床現場にいる者の悩みや苦労は共通であり、共有できる情報も多く、非常に有意義な学会であった。

なお、2004年は10月にオタワ(カナダ)で開催される予定である。

(広報 松山)

支部学術大会報告

東海支部

平成15年11月30日(日)静岡県浜松市のアクトシティ浜松にて、五十嵐順正教授(松歯大)を支部長、藤原康功先生(静岡県)を大会長として、平成15年度日本補綴歯科学会東海支部学術大会が開催された。東海支部では初めての試みとして、開業医の先生が大会長として指揮を振るったが、参加者約210名と支部会としては大変盛況であった。一般演題15題と認定医申請ケースプレゼンテーション1題という内容のうち、6題が開業医の先生からの臨床例報告であったことは、本学術大会の方向性を特徴づけているといえよう。

また、支部会と併催された生涯学習公開セミナーでは、“臨床実感からEvidenceへの期待—歯周疾患の観察から—”と題して北川原 健先生(長野県)、さらに“日常臨床における精密印象—特にレジン個歯トレー法について—”と題して蒔田真人先生(静岡県)の両先生が講演された。北川原先生からは歯周病の増悪因子として、「プラーク」と「力」の2要素が大きくかかわっているが、特に「力」の解放に非常に苦慮を要する旨の報告があった。一方、蒔田先生は多数歯にわたるクラウン・ブリッジの印象採得を行う際には個歯トレー法が有効であり、これにより今後の期待できる補綴物を製作可能なことを、自身の臨床例も交えて強調された。



左より、北川原先生、五十嵐教授、蒔田先生

(松本歯科大学大学院顎口腔機能制御学講座
山下秀一郎)

☞ ニュース 計報

本年度（平成15年4月1日より平成16年1月まで）にご逝去された会員は次の2名の先生です。

萱中正儀（カヤナカ マサノリ）先生
平成15年5月9日ご逝去・萱中歯科医院
（長岡市開業・関越支部，一般正会員）

村岡 博（ムラオカ ヒロシ）先生
平成15年12月23日ご逝去・村岡歯科医院
（東京都開業・東京支部，名誉会員）
ご冥福をお祈りいたします。

九州支部



平成15年11月29日（土），30日（日）に福岡歯科大学・佐藤博信大会長のもと，福岡から900キロあまり離れた那覇市・沖縄県市町村共済組合自治会館にて平成15年度日本補綴歯科学会九州支部学術大会が行われた。支部活動が担

当校以外の地で開催されたのは平成8年に鹿児島大学・長岡英一大会長のおり宮崎市で，また平成14年に長崎大学・藤井弘之大会長のおり熊本市で開催したのに続き，今回が3度目である。

1日目午後から「市民フォーラム」と「生涯学習公開セミナー」，2日目午前中に一般口演9題，ポスター発表9題，認定医ケースプレゼンテーション3題の発表が行われ，午後からは臨床シンポジウムが企画された。今回の企画にはいずれもインプラントに関する話題がとりあげられた。

市民フォーラムの松浦正朗先生（福歯大）による「人工歯根によるインプラント治療ってどんなもの」という講演では，インプラントを含む歯科治療のこれまでの歴史から最先端の技術までをわかりやすく解説がな



市民フォーラム会場



業者展示

された。この市民フォーラムには地元歯科医師の方，老若男女の一般の市民の方，併せて約250人の参加があり，沖縄におけるインプラント治療に対する関心の高さが表れていた。また市民フォーラムの前後には，会場後方に設けられた業者展示のブースで熱心に歯科材料の話に耳を傾ける一般市民の姿も多くみられ，いつもの業者ブースとは異なった雰囲気でも，担当者も対応に追われていたようである。



山下恒彦先生

引き続き行われた生涯学習公開セミナーでは「審美的インプラントの上部構造の製作法」というテーマで城戸寛史先生（福歯大），山下恒彦先生（デンテック），内海賢二先生（愛歯東京営業所）の講演が，また2日目に行われたシンポジウムでは「イン

プラント歯科治療における審美的上部構造」というテーマで宮城正廣先生（沖縄歯科インプラント研究会），山下先生（前記），内海先生（前記），細川隆司先生（九歯大）による講演がなされた。それぞれの先生から，審美的なインプラント実現のための重要なキーポイントや最先端の技術に関する興味深い講演がなされたが，おそらくこれらの講演のなかで最も会場から注目をうけたのが，山下先生の動画と音楽によるインプラントと生体組織とハワイアンを踊る女のシルエットを絶妙にアレンジしたオープニングとエンディングだったと思われる。世界をまたにかけて活躍される山下先生らしいプレゼンテーションに会場からも大喝采であった。

沖縄県での九州支部学術大会の開催は初めてで，主管校の先生方のご努力に加え，福岡歯科大学同窓会沖縄支部や，沖縄県歯科医師会の強力なバックアップがあって非常に盛会であった。特に懇親

NC VERACIA

ナノテクノロジーと機能的形態が融合した 新人工歯 **硬質レジン歯**

NC Veracia

医療用具承認番号 21100BZZ00751

NC ベラシア アンテリア

硬質レジン歯（前歯用）1組…¥780 色調：A1, A2, A3, A3.5, B2
形態：上顎5形態、下顎3形態

医療用具承認番号 21200BZZ00272

NC ベラシア ポステリア

硬質レジン歯（臼歯用）1組…¥1,040 色調：A2, A3, A3.5, B2
形態：上下顎各2種

価格は2002年11月現在の標準医院価格（消費税抜き）です。

世界の歯科医師に貢献する **株式会社 松風**
本社●〒605-0983京都市東山区福福上高松町11-TEL(075)561-1112(代)

会では、沖縄歯科医師会有志のエイサー隊による余興もあり、参加者が全員で歌い踊って、学術大会とはまた別の楽しい沖縄の思い出となった。



エイサー隊の余興を楽しむ参加者

今後、このような地域歯科医師会との連携を強化し、同じ土俵でより良い臨床を患者さんに提供するための研鑽を重ねていくことが、補綴歯科学会がさらに発展する原動力になるのではないかと感じた支部学術大会であった。

(広報 諸井)

次回学術大会案内

第111回日本補綴歯科学会学術大会 第2回 日・韓共同学術大会

開催日：平成16年5月21日（金）、22日（土）
会場：文京シビックホール
大会長：大山喬史（東京医科歯科大学大学院）
テーマ：「口腔の機能を測る」

今後の学術大会案内

第112回日本補綴歯科学会学術大会

開催日：平成16年10月15日（金）、16日（土）
会場：横須賀芸術劇場
大会長：豊田 實（神奈川歯科大学）

第113回日本補綴歯科学会学術大会

開催日：平成17年5月13日（金）、14日（土）
会場：グランキューブ大阪（大阪国際会議場）
大会長：野首孝祠（大阪大学大学院）

第114回日本補綴歯科学会学術大会

開催日：平成17年秋
大会長：河野正司（新潟大学大学院）

支部会案内

東京支部

開催日：平成16年2月21日（土）
会場：日本大学会館
大会長：三浦宏之（東京医科歯科大学大学院）
テーマ：「パーシャルデンチャーを考える（仮題）」
※日本補綴歯科学会生涯学習公開セミナーを併催
テーマ：「欠損歯列とその処置」
1) 宮地建夫 先生（東京都開業）
2) 五十嵐順正 先生（松本歯科大学歯科補綴学第一講座）
3) 永井栄一 先生（日本大学歯学部補綴学教室局部床義歯学講座）

関西支部

開催日：平成16年2月29日（日）
会場：兵庫県歯科医師会館
大会長：江藤隆徳（大阪歯科大学）

📖 ニュース 新任教授紹介

窪木拓男先生

岡山大学大学院医歯学総合研究科顎口腔機能制御学分野（前・岡山大学大学院医歯学総合研究科顎口腔機能制御学分野助教授）

倉澤郁文先生

松本歯科大学歯学部歯科補綴学第2講座（前・松本歯科大学歯学部歯科補綴学第2講座助教授）

黒岩昭弘先生

松本歯科大学歯学部歯科補綴学第1講座（前・松本歯科大学歯学部歯科補綴学第1講座助教授）

Happy Smiles
Heartful
Communication

心身ともに健やかに...
これがモリタの願いです

株式会社モリタ 株式会社モリタ製作所 株式会社モリタ東京製作所
www.dental-plaza.com

Letter for Members No. 13 2004

Japan
Prosthodontic
Society

日本補綴歯科学会

Japan Prosthodontic Society

<http://wwwsoc.nii.ac.jp/jpds/>

発行人 大山 喬史 編集 広報委員会

事務局 〒170-0003 東京都豊島区駒込1-43-9 (財) 口腔保健協会

Tel 03-3947-8891 Fax 03-3947-8341

平成16年2月10日発行

コンテンツ

学術大会の年1回開催実現への検討	1	関連国際学会報告	9
GNYP (Greater New York Academy of Prosthodontics) と JPS (日本補綴歯科学会) との共催学会開催される	1~3	支部学術大会報告	9~11
Letter for Members 秋特別号		次同学術大会案内	11
アンケート結果	3~6	今後の学術大会案内	11
会員の声	6,7	支部会案内	11
日本補綴歯科学会認定研修期間(乙)		ニュース	
取材報告	7,8	・ 訃報	10
		・ 新任教授紹介	11



セントパトリック教会



沖縄エイサー踊り

学会および広報委員会へのご意見ご要望をお寄せください

日本補綴歯科学会広報委員会

委員長 沖本公繪 副委員長 北川 昇

委員 貞森紳丞, 濱野 徹, 松山美和

幹事 諸井亮司

TEL : 092-642-6371, FAX : 092-642-6374

E-mail : kohojps@dent.kyushu-u.ac.jp

〒812-8582 福岡県福岡市東区馬出3-1-1

九州大学大学院歯学研究院 口腔機能修復学講座

咀嚼機能制御学分野